

今日のトピック ECBの追加緩和と市場動向

物価見通しを下方修正し、金融緩和を拡充

ポイント1 包括的な追加緩和決定

金利引き下げと量的緩和拡充など

- 欧州中央銀行（ECB）は10日、預金金利のマイナス幅拡大、資産購入策の規模と対象の拡充、現行の長期資金供給策の実質的な延長などを柱とする、包括的な追加緩和を決定しました。
- 追加緩和決定の理由は、2%近くとする物価目標を達成するためとされました。今回、ECBは16年の物価見通しを前年比+1.0%から+0.1%と大きく引き下げ、16年と17年の景気と物価の見通しを下方修正しました。

ポイント2 予想を上回る緩和内容

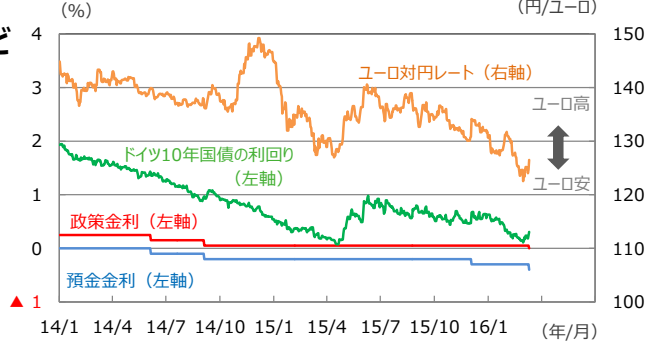
総裁発言を巡り、市場は乱高下

- 今回の追加緩和は前回の昨年12月よりも拡充され、大方の予想を上回る内容でした。発表直後、ユーロは対円、対ドルで下落、株価は上昇、ドイツ国債利回りは低下しました。
- しかし、ドラギ総裁が会見で「一段の利下げが必要と考えていない」と発言したことが伝わると、ユーロ高、株安、ドイツ国債利回り上昇へと反転し、市場の変動が強まりました。

今後の展開 追加緩和の効果見極めへ

- 今回の追加緩和により、企業の資金調達環境が改善し、ユーロ圏の景気回復の動きが緩やかながらも強まることが期待されます。こうした金融緩和の効果が意識されるにつれ、追加利下げ期待の後退で強まった市場の変動も徐々に落ち着くと見られます。
- ドイツ国債の利回りは、強力な金融緩和が続くことから、低位での推移が見込まれます。為替市場では、米国の利上げが予想されるものの米景気の先

政策金利、ユーロ、ドイツ国債の利回り



(注) データは2014年1月1日～2016年3月10日。政策金利はMain Refinancing Operations 金利。預金金利はDeposit Facility 金利(翌日物)。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

拡充された主な緩和策 () は変更前

金利	主要政策金利を0.00%へ (0.05%)
	預金金利をマイナス0.4%へ (マイナス0.3%)
	限界貸出金利を0.25%へ (0.30%)
資産購入	資産購入規模を月額800億ユーロへ (600億ユーロ)
	資産購入対象に、事業債を追加 (国債、地方債など)
資金供給	TLTROを17年3月まで実質的に延長 (16年6月期限)

(注) TLTRO (目的を絞った長期資金供給オペレーション) とは、金融機関向けの低金利での長期融資のことです。
表の左列は、政策の種類。

(出所) ECBの発表を基に三井住友アセットマネジメント作成

行き懸念もあり、ユーロは対米ドルで横ばい圏、対円では日銀の緩和姿勢から方向感が出にくいと見られます。株式市場では、強力な金融緩和と企業業績の回復を背景に、底堅い展開が予想されます。

- ECBは、当面は今回の追加緩和の効果を見極める姿勢と見られます。しかし、物価が目標を下回る状況の長期化が予想され、今年半ば以降、さらなる追加緩和が必要になりそうです。

ここも チェック!

2016年2月25日 最近の指標から見る欧州経済 (2016年2月)

2016年1月22日 ECBの金融政策と市場動向 3月の追加金融緩和を示唆

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。